

安定ヨウ素剤 効果は24時間

嶺南6市町で配布開始

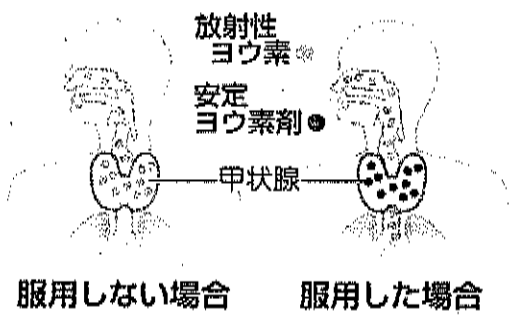
原発事故発生時に甲状腺被ばくを抑える安定ヨウ素剤の事前配布が、原発から五〜三十キロ圏内にある嶺南六市町の十二歳以下の人や妊婦、障害者ら希望者を対象に始まった。安定ヨウ素剤とは、そもそもどんなものなのか。効果を発揮する仕組みや服用のタイミング、注意点をまとめた。

甲状腺被ばくは、原発から大気中に出た放射性ヨウ素が体内に取り込まれ、甲状腺に集まることで起き、がん発症リスクが高くなる。安定ヨウ素剤が甲状腺被ばくを抑えるのは、甲状腺で取り込めるヨウ素の量には限りがあるため、服用して甲状腺を安定ヨウ素で満たしておくことで、放射性ヨウ素が甲状腺に蓄積されず、尿などで体外に排出されるからだ。

安定ヨウ素剤の効果は服用から二十四時間ほどで、放射性ヨウ素を吸う二十四時間前から吸った二時間以内の服用が欠かせない。服用のタイミングは国、県、市町が指示する。服用量は年代によって異なる。

ただし、体外にある放射性物質からの被ばくやセシウムなど他の放射性物質には効果がないため、服用後も避難や一時移転は求められる。副作用の発生はまれだが、海藻などヨウ素を含むものにアレルギーがある人は注意が必要だ。

安定ヨウ素剤の対象と服用量	対象	服用量
	ゼリー剤小	(16.5mg) 1包
	ゼリー剤大	(32.5mg) 1包
	丸剤	1錠 (50mg)
	丸剤	2錠 (100mg)



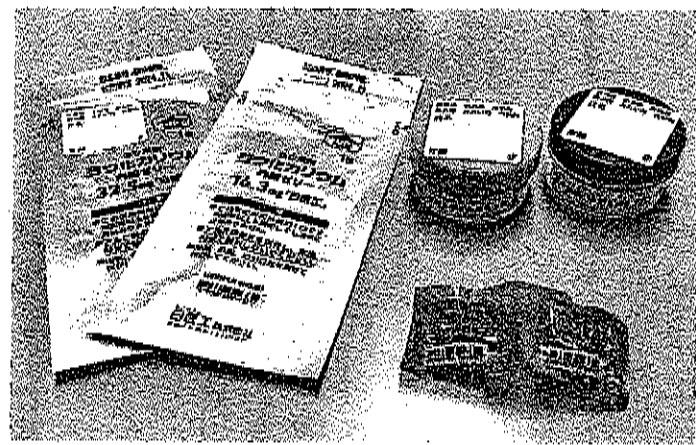
県内の安定ヨウ素剤配布

アレルギーある人 注意を

は、原発から五キロ圏内と五〜三十キロ圏内にある十二市町の約三十一万八千人が対象。原発からの放射性物質が大気中に出る前に避難が必要な五キロ圏内の人には事前配布している。五〜三十キロ圏内の人には避難経路上での配布を基本とし、緊急時に速やかに受け取るのが難しい希望者に限り、事前配布している。

嶺南六市町での事前配布は、九月下旬〜十月八日の説明会のほか、薬局でも行っている。県地域医療課の担当者「安定ヨウ素剤の効果を理解してもらい、希望する人に届けたい」と話す。

(佐久間博康)



安定ヨウ素剤のゼリー剤(左)、丸剤(右下)、丸剤を入れるケース(右上) = 県庁で